

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座

工原 No.3【製造間接費計算】

収録日：平成 25 年 6 月 30 日
レジュメ改訂日：平成 26 年 1 月 5 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 116 回、119 回で関連問題が少しだけ
全経簿記上級過去問 158 回、(162,168 回は、部門別計算の基本的知識として必要)

製造間接費の予定配賦

中央経済社のテキスト読んでいる内容は、レジュメの P 5 以降を確認して下さい。

経費に関しては、お持ちのテキストを読んでください。

製造間接費の実際発生額

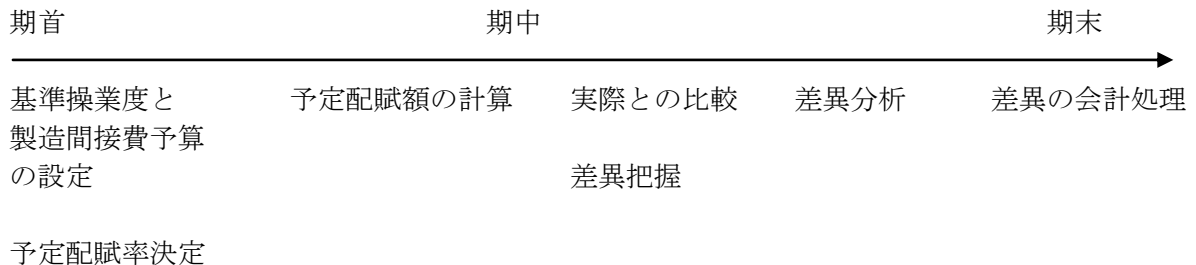
直接費と間違いそうな内容

労務費：従業員諸手当、手待ち時間、定時間外作業手当
材料費：材料副費、棚卸減耗費

予定配賦を行う意味

迅速化&単位原価の安定が目的です

Step1~Step5の流れを強く意識して下さい（部門別や標準でも同じ）



① 基準操業度の決定

理論的生産能力：通常は使わない。実際的生産能力算定の為に使う程度

実際的生産能力（能力）：部門別の固定費配賦基準として使うケースが多い

平均操業度（正常）：過去の数値（5年平均で単年度の異常な数値をならす）を基に計算

期待実際操業度（予定）→予定消費量などは、この数値から算定する（未来的）

基準と実際と標準の違い

1個10hでつくれる製品Aを扱っている会社を考えよう

基準⇒1年間で150個売れそう（期待） $150 \times 10h = 1,500h$

実際⇒1,100時間の操業度であった。でもリーマンショックで100個しか作らなかった

標準⇒ $10h \times 100 = 1,000h$

ここまでで動画は41分くらいだと思います。

この後は中央経済社のテキスト P58 を読んでいますが、他のテキストお持ちの方は各自でご確認下さい（サク1改訂2版 P138~145、スッキリ I 第3版 P97~100）

製造間接費計算② ここから、有料講座になります

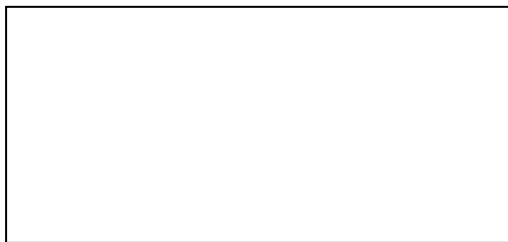
講師は中央経済社テキスト P60 読んでますが、各自のテキストご確認下さい
 (サク 1 改訂 2 版 P146~154、スッキリ I 第 3 版 P101~106)

7 分~10 分は多桁式 (実査法) 変動予算の説明していますが、中央経済社 P60 以外はテキストに掲載されていないので、聞く程度で結構です。

② 製造間接費予算の設定

固定予算：基準操業度の予算のみ作成する (固定費予算ではない)

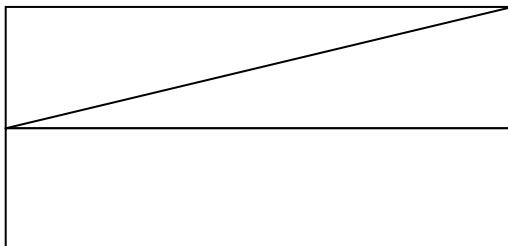
	1,000 時間 (基準)
間接材料費	2,500,000
間接労務費	400,000
水道光熱費	1,800,000
減価償却費	1,800,000
合計	6,500,000



1,000h

公式法変動予算 (予算を 2 個つくる)

	1,000 時間 (基準)	1,200 時間	変動費	固定費
間接材料費	2,500,000	2,800,000		
間接労務費	400,000	600,000		
電力量	1,800,000	2,400,000		
減価償却費	1,800,000	1,800,000		
合計	6,500,000	7,600,000	5,500	1,000,000



1,000h

「例題 4-1 をして下さい」と話しています。レジメ P 5 に掲載しています。

③ 差異分析

(サク 1 改訂 2 版 P155~165、スッキリ I 第 3 版 P107~113)

総差異 (予定配賦額 - 実際発生額)

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{予算差異} \quad \text{予算額} - \text{実際発生額} \\ \text{操業度差異} \quad \text{総差異} - \text{予算差異} \end{array} \right.$$

固定予算と公式法変動予算は**予算額**が違います

固定予算 = 予算が固定化されている

公式法変動予算 = 予算が公式で求められる

結局操業度差異は差の概念

但し、公式法を使った場合は、より厳密な責任会計になる

例題 4-1

CMC製作所では、機械時間を基準として製造間接費を予定配賦している。以下の資料に基づいて、①変動予算②固定予算の場合の予定配賦額、予算差異、操業度差異を計算しなさい。

1.製造間接費予算

科目	固定費	変動費	合計
補助材料費			
消耗工具			
給料			
修繕費			
電力量			
減価償却費			
リース料			
雑費			
合計	120,000,000	15,000,000	135,000,000

2.年間基準操業度 30,000 時間

3.当月の実際機械作業時間 2,480 時間

4.当月の製造間接費実際発生額（固定費 10,000,000 円 変動費 1,200,000 円）

回答

	①変動予算	②固定予算
予定配賦額	11,160,000	11,160,000
予算差異	40,000（有利差異＝貸方差異）	50,000（有利差異＝貸方差異）
操業度差異	80,000（不利差異＝借方差異）	90,000（不利差異＝借方差異）

ついでに、練習問題 4-1 も行きましょう

練習問題 4-1

CMC社では、実際原価計算を行っており、製造間接費は公式法変動予算によって直接作業時間を配賦基準として正常配賦している。以下の資料に基づき、製造間接費勘定と仕掛品勘定を作成するとともに、予算差異と操業度差異を計算しなさい。

(単位：千円)

主要材料月初棚卸高	400
主要材料月末棚卸高	450
仕掛品月初棚卸高	200
仕掛品月末棚卸高	100
賃金月初未払高	2,300
賃金月末未払高	2,350
賃金当月支払高	8,000
賃率差異（借方）	180
予定賃率による直接工賃金	2,000
補助材料 当月消費高	700
主要材料 当月仕入高	7,500
材料消費価格差異（貸方）	100
電機代（当月消費高）	1,800
月額減価償却費	1,500
年間予定直接作業時間	12,000 時間
年間製造間接費予算額	120,000 (うち固定費 84,000)
当月実際直接作業時間	990 時間

